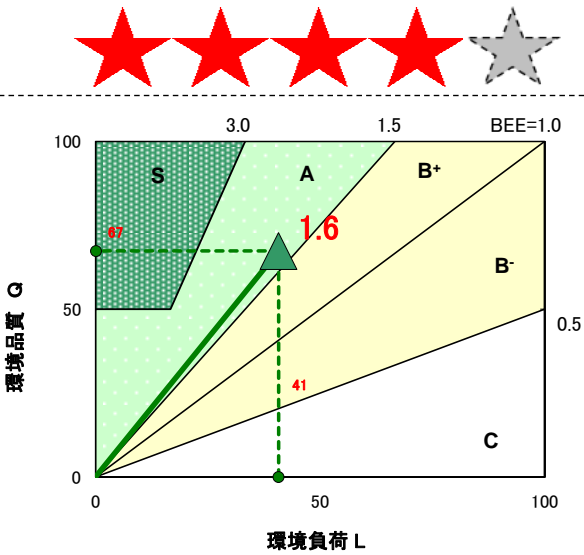


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	はまゆう療育園	階数	地上4F	
建設地	熊本県天草郡苓北町志岐字大田尾	構造	RC造	
用途地域	指定なし	平均居住人員	250 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年8月28日	
敷地面積	34,103 m ²	作成者		
建築面積	4,737 m ²	確認日	2018年9月4日	
延床面積	10,079 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.6

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—


■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率

92%

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★



2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	81.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	87.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	92.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	89.2

■ 熊本県重点評価基準

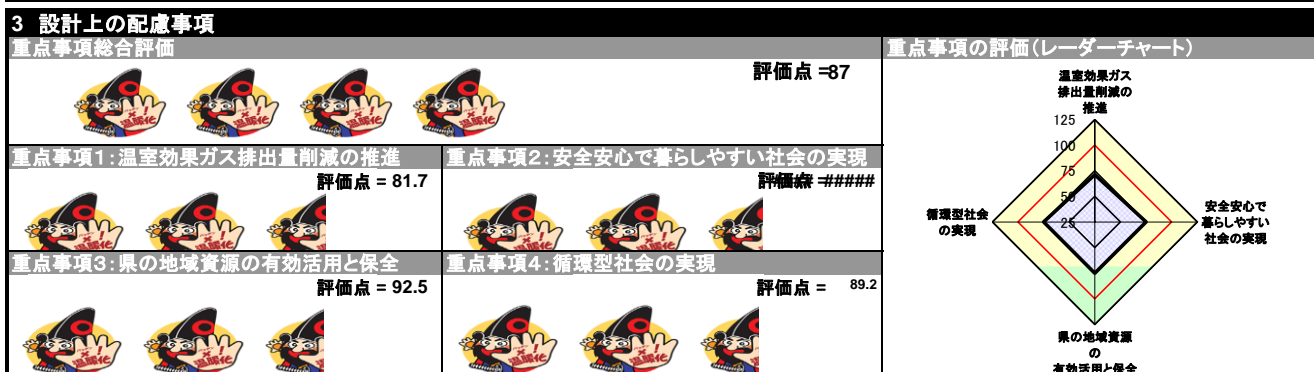
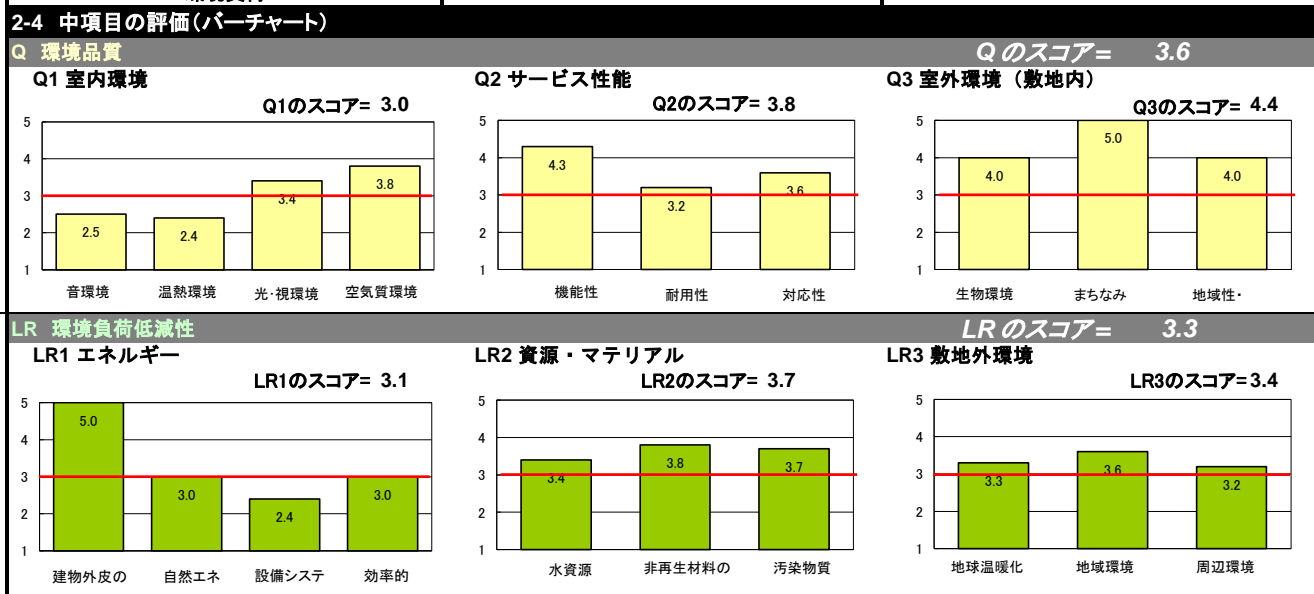
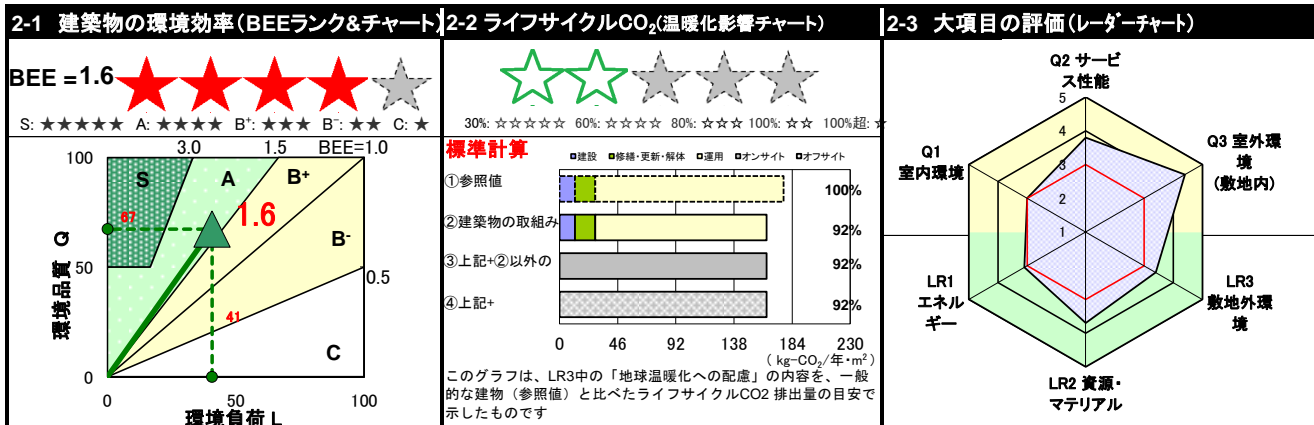
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

評価点

87

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	はまゆう療育園	階数	地上4F
建設地	熊本県天草郡苓北町志岐字大田尾	構造	RC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年8月28日
敷地面積	34,103 m ²	作成者	
建築面積	4,737 m ²	確認日	2018年9月4日
延床面積	10,079 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周囲との景観の調和やまちなみへの潤いを生み出すために敷地周囲に緑地を配置した。

Q1 室内環境

F☆☆☆☆建材を使用した。

Q2 サービス性能

・地震に備え、免震構造を採用し、入所者・職員の安全を確保。・病室、廊下は広く確保し、入所者の利便性を向上させ、スタッフが看守りやすい環境を整備。・スタッフの看守り活動を容易にするスタッフ内部動線を確保。・移動や看守りを優先したブロック計画。・設備系統は将来の更新を容易にするために、スケルトンインフィルの設定。

Q3 室外環境（敷地内）

・敷地内に緑地を設け、遮熱環境に配慮した。・既存森林は下草を刈払い、生物の多様性を高め、里山として再整備。・造成に伴う土の移動は外部へ搬出せず場内で処分する。

LR1 エネルギー

・ガラスは、Low-eガラスを採用し、遮熱性を高めた。・太陽光利用を行い自然エネルギーの利用に努めた。

LR2 資源・マテリアル

・高耐久性・高寿命化を確保するために、P C a免震構造の採用。・断熱材はすべてノンフロンを使用。・建物外周に庇を設け、眺望は遮らずに日射を確保し日射熱の取得を軽減。

LR3 敷地外環境

・溜池の再配置など雨水は、出来るだけ地中に戻し環境に配慮する。・地域活動も行える大会議室の整備。

その他

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.6
Q1 室内環境					0.40		-		3.0
1 音環境				2.5	0.15	2.8	1.00		2.5
1.1 室内騒音レベル		【待合】待合室50dB(A) 【診察】診療室40dB(A) 【宿泊】病室35dB(A)		3.0	0.40	5.0	0.40		
1.2 遮音				1.8	0.40	1.6	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				1.0	0.60	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	1.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				2.5	0.35	2.2	1.00		2.4
2.1 室温制御				3.2	0.50	3.4	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能		【共用】【宿泊】窓 SC:047、U:2.50 壁 U:0.792		4.0	0.25	4.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境				3.3	0.25	3.6	1.00		3.4
3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		【待合】3.40% 【診察】2.74% 【宿泊】4.50%		5.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		【共用】ロールスクリーン+庇 【宿泊】カーテン+庇		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.9	0.25	3.7	1.00		3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30	3.3	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		【宿泊】3階病室1床 AW-303 0.086>(1/15)			-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	1.00		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.8
1 機能性				4.2	0.40	5.0	1.00		4.3
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		【宿泊】個室:16.78㎡/床 4床室:10.78㎡/床 10床室:9.63㎡/床			-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	5.0	0.40		
1 広さ感・景観		【宿泊】CH=2.7m			-	5.0	0.50		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画		取り組み4項目		5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理				5.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		①ビニルクロス貼②長尺塩ビシート③適度な水使用可④ホコリの溜まりにくい設計⑤風除室扉間:2.13m⑥一室で異なる床材の使用なし⑧バルコニー設置により壁面汚れ防止⑩亜鉛メッキ処理⑪極力段差のない動線		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		①(保管用)倉庫設置②5SK設置③水勾配を計画④廃棄物置場⑥清掃用電源を計画⑦バルコニー設置による安全な維持管理作業⑧各排水トラップ取外し可⑨⑩共用部での維持管理可(PS)天井裏スペース		5.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30		-		3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.4	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		免震ピット		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種にBを使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.0	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.7	0.30	3.4	1.00	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	3.8	0.50	
1	階高のゆとり	【共用】4.3-4.7m 【宿泊】4.7m	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	【共用】比率:0.14 【宿泊】比率:0.62	4.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	マシンハッチ確保かつ建物機能を維持	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出		・立地特性を把握、計画方針を示す・生物資源を保存・外構緑化指数:51.08%・自生種の保全に配慮した緑地づくり・植栽条件に応じた適切な緑地づくり・野生小動物に配慮した緑地づくり・維持管理設備、管理方針を示す・生物とふれ合える環境(公園)	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		・周辺景観との調和・緑地による良好な景観形成・既存の自然環境を保存・良好な景観形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		・地域性のある材料(クリンカアッシュ)・広場、公園によるアメニティ向上・地域に開放(大会議・講義室)・風や光が通り抜ける空間・視線を遮らない樹木の配置	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm:0.77	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.4	0.50	-	-	2.4
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ+省水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生木材、再生クラッシュラン、クリンカアッシュ	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS下地)・再利用できるユニット部材(フリアクセス707)	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	押出ポリ3種b、GW24K、吹付硬質ウレタンA種1H	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:92%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		・気象データ・配置形状計画を工夫・見付面積比:23.72%・隣棟間隔指標:8.01・地表面対策率:45.51%・屋根面一部緑化・LR1:3.1	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	・適切な量の駐車スペース・管理用車両の駐車スペース・導入路の位置や形状への配慮	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	・ゴミの種類や量を推計・ストックスペースを計画・分別回収を計画・有価物回収を計画	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインを満たす・広告物照明の取扱いを満たす	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 はまゆう療育園

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点		87
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点	
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				81.7	0.40	32.68	
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05				
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05				
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05				
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15				
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20				
LR1-3	設備システムの高効率化	2.4	0.30				
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10				
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10				
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				87.5	0.20	17.50	
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25				
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25				
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.15				
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	4.0	0.20				
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15				
③ 県の地域資源の有効活用と保全				92.5	0.20	18.50	
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	5.0	0.20				
LR2-1.1	節水	4.0	0.30				
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20				
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30				
④ 循環型社会の実現				89.2	0.20	17.84	
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30				
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30				
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10				
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15				
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15				

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。
※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数